



鑑島小だより

<http://www11.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1510036>

令和7年11月21日

校長 野口 典弘

第8号



脈々と流れたる

秋のマラソン大会、文化祭、音楽交歓会、大きな行事を通して鑑島の子どもたちは確実に「つよさ」「かしこさ」「おつまじさ（コミュニケーション力）」を高めています。次は、いよいよスキーです。初雪も降り、子どもたちの気持ちも高まっています。

先日、つつじ管理委員会の皆様、そしてPTAの皆様と宴席を囲む機会がありました。改めて鑑島地域の皆様の子どもの教育にける思い、学校への熱い協力精神を感じました。何人かの方から「この地域の思いは、昔から変わってねえ」「父母と教師の会の新聞を読んでみてください」とお話をお聞きしました。そこで、春から今まで少しずつチラ見していた『父母と教師の会の新聞』の合本2冊をもう一度開いてみました。読み進めると、これから始まるスキーに関係する話がいくつもあり、学校や地域の思いが表れていました。

＜前略＞特に、スキーでの成果はご承知の通りです。時には「あんなにしなくても」「スキーにばかり力を入れなくても」という声もなきにしもあらずです。だが、一つのことに集中（熱中）できない人間は何をやっても長続きしません。スキーが上手になるのをねらっているのではないのです。それよりもスキーをやる事で、人間としての生きていく力（積極性とか自主性・根気強さ等）を付けてやりたいのです。そしてそれは、今において適期はないのです。正に鉄は熱いうちに・・・です。＜後略＞（昭和60年3月発行 校長 本田 和雄）

同時期のPTA会長も次のように言っています。

＜前略＞幸いにして鑑島ではスポーツを中心とした連帯感も強く、各種大会時の父兄参加も非常に多いと感じています。そういった事が他の行事にも好影響を呼んでいると思います。ただ成績が良ければそれで良しとせず、スポーツを通じての親子の対話、あるいは学校との対話をできるだけ持てれば、さらに力強い連帯感が結ばれるものと思います。＜後略＞

（昭和63年7月発行 PTA会長 斎木 篤）

共通している思いは、クロスカントリースキーは目的ではなく、手段の一つだということです。地域・保護者と学校をつなぎ、子どもの「つよさ」「かしこさ」「おつまじさ（コミュニケーション力）」を高めるための手段です。脈々と流れたる地域の皆様の熱い思いを胸に、今年も子どもたちと共に全力でがんばります。いつも変わらぬご支援、ありがとうございます。



文化祭準備

文化祭を終えて記念撮影

がんばった文化祭 ～ 学年・音楽部・全校発表 ～



音楽部発表



全校発表



1・2年生「大きなかぶ～ウルトラ大きなかぶにチャレンジ!～」



3・4年生「十一人十一色の一日」



5年生「注文の多い料理店～げんき学年テイスト～」



6年生「東京の果てまで…イッテQ」



多くの保護者、地域の方からご来校いただき大変ありがとうございました。いよいよクロスカントリースキーの季節がやってきます。